

達成目標の進捗状況

事業採択時の目標設定の考え方

教育

地域と連携して課題解決を目指す授業カリキュラムを学部ごとに充実させて学生に技法を身につけさせ、卒業論文(総合研究)・修士論文研究でより深く地域の課題に取り組むプロジェクトの実学を実践させる。特に、「地域連携PBL」を設置し、まちづくり、ものづくり両方の分野において、継続的、体系的に地域連携教育ができるカリキュラムを構築する。まずシラバスで地域に関する学修を行う事を明示し、学生の履修を促進した。更に、地域志向授業科目の必修化、地域連携PBLの履修促進などのカリキュラム改革を継続的に行っていく。

研究

地元企業と連携して学生参画型の共同研究等を実施し、幅広い業種・業態の企業との連携を目指す。研究活動の促進を通して、地元経済に対して新たなビジネス需要を発掘するとともに、学生に対しては地元で働くことや中小企業に対する理解を深めることで人材供給・定着を図る。

社会貢献

地域での公開講座・ロボット製作教室、シンポジウム、ウェブサイト公開、出版などにより、知の公開を活性化すると同時に、地域企業を対象としたマッチングイベントによる知の交流を推進する。また、各連携地域において、技術創生につながる地域連携プロジェクトの創生を図る。

達成目標の設定(平成25年度採択時)

		(採択前)		(補助事業終了時)	
		平成25年度		平成29年度	
教育	シラバスで地域に関する学修を行うことを明示する科目 (科目名に「地域」の文言のあるもの)	大学院	16科目 年間履修者数：105名 授業満足度：81%	30科目 年間履修者数：300名 授業満足度：90%	
		学部	19科目 年間履修者数：749名 授業満足度：76%	29科目 年間履修者数：1450名 授業満足度：90%	
研究	地域との受託・共同研究実績	36件(約20%) 参加教員：36人		45件(約20%増)※年4%増 参加教員：46人	
	地域産業における新規ビジネス需要	0件		3件(各地域で1件)	
	地域企業への就職者数	東京都/大学院：293人 学部：520人 埼玉県/大学院：19人 学部：33人		5年間で10%増	
社会貢献	知の公開 (公開講座・セミナー)	59講座 教員数：33名(他外部講師30名)		70講座 教員数：50名(演習・実習型等拡大) ウェブサイト	
	知の交流 地域企業対象 マッチングイベント	大学主催イベント	2回 教員：90名、学生：104名	3回	
		地域主催イベント	10回 教員：18名、学生：23名	15回 市民活動交流コーナー・教室解放 連携ウェブサイト	
	知の創生 技術イノベーション(地域連携PJ)	1PJ (さいたま市)		3PJ (さいたま市、江東区、港区)	

シラバスにおいて地域に関する学修を行うことを明示している授業科目

- 2014年度よりシラバスへの「地域志向ラベル」付与を開始した。地域志向科目数は、2014年度は148科目(学部84科目・大学院64科目)、2015年度は251科目(学部146科目・大学院105科目)と大きく伸びており、学内普及の成果が出ていると思われる。
- 「地域志向ラベル」の設定は教員が設定するものであるが、当初想定した2017年度の科目数185科目(学部95科目・大学院185科目)を大きく超えた結果となっているため、2017年度目標値も再設定を行った。



官公庁や企業の参加により地域課題の解決方法を提案するPBL授業の例



地域企業が抱える課題を分析し、解決のためのシステムを提案するPBL授業の例

「地域志向ラベル」付与科目(2014年度～)

	(採択前)	2013年度実績	2014年度実績	2015年度目標	2015年度実績※	2017年度目標
学部	—	—	84	88	146	175
大学院	—	—	64	67	105	125

(参考：当初の指標設定の考え方)

- 申請当初は、地域志向ラベルが設定されておらず、科目名に「地域」を含む科目を指標としてカウントしていたが、地域志向ラベル付与科目の方が適切な指標であるため、指標の見直しを行った。

科目名に「地域」を含む科目(当初)

	(採択前)	2013年度実績	2014年度実績	2015年度目標	2015年度実績※	2017年度目標
学部	19	18	18	22	19	29
大学院	16	19	20	23	25	30

※成果報告書執筆時点は年度内であるため暫定値

地域との受託・共同研究実績

- 城東地域（江東区・中央区）と芝浦地域（港区・中央区）、埼玉地域（さいたま市・その他埼玉県内市町村）における受託・共同研究件数は、事業最終年度の設定目標を達成した。
- 地域と連携した情報発信や産学イベント等の効果と思われるが、社会経済状況や企業の動向にも左右されるため、継続的な取り組みを推進していく。



地域企業のものづくり製造プロセス改善にかかわる共同研究の例

	(採択前)	2013年度実績	2014年度実績	2015年度目標	2015年度実績※	2017年度目標
研究数	36	39	46	48	61	50

地域産業における新規ビジネス需要

- 2013年度は上尾市の原市団地におけるコミュニティビジネス需要、2014年度はさいたま市と石川県珠洲市の連携による農業支援システムを計上した。2015年度は6輪車いすの製品化、農業支援プログラムの知財取得などの活動展開を計上する。
- 順調に目標を達成しており、引き続き地域と連携した取り組みを継続していく。



段差・脱輪に強い6輪の車椅子の開発

	(採択前)	2013年度実績	2014年度実績	2015年度目標	2015年度実績※	2017年度目標
需要	0	1	1	2	2	3

地域企業への就職者数

- 東京都と埼玉県の就職者数を計上した。
- 若干の上下はあり、また、社会経済状況に左右される値であるが、引き続き地域企業との連携を推進していく。

	(採択前)	2013年度実績	2014年度実績	2015年度目標	2015年度実績※	2017年度目標
就職者数	872	833	859	890	(集計中)	952

※成果報告書執筆時点は年度内であるため暫定値

知の公開：公開講座、セミナー等

- 生涯学習公開講座、COCプロジェクト公開講座・セミナー等を計上した。
- 順調に増加しており、中間年度で最終年度の設定目標を達成した。生涯学習公開講座との連携、COC関連教員の協力の成果と思われる。



連携自治体と大学の連携による地域人材養成セミナーの例

	(採択前)	2013年度実績	2014年度実績	2015年度目標	2015年度実績※	2017年度目標
講座数	59	53	62	65	77	70

知の交流：大学主催イベント、地域主催イベント

- 大学主催イベントとしては、2014年度は「COC全学交流会」、「芝浦ハッケン展」、「大学とまちづくり」、2015年度は「大学開放DAY!」「大学とまちづくり・ものづくり」「COC学生成果報告会」を計上している。地域主催イベントは連携地域内のマッチングイベント等を集計している。
- 連携自治体や関連団体との連携により順調に増加しており、中間年度で最終年度の設定目標を達成した。引き続き、地域の自治体や団体等との連携を継続、強化していく。



地域主催イベントでのまちづくり研究成果発表の例

	(採択前)	2013年度実績	2014年度実績	2015年度目標	2015年度実績※	2017年度目標
イベント数	12	9	16	17	20	18

知の創生：技術創生につながる地域連携プロジェクト

- 技術創生につながる地域連携プロジェクトとして、2013年度は江戸っ子1号、2014年度は二輪車転倒防止システムを計上した。2015年度実績はロボット技術の社会実験展開、新規折りたたみ自転車の開発を計上する。
- 設定目標を達成しており、引き続き地域と連携した取り組みを継続していく。



ロボット技術の共通プラットフォーム開発と社会実験展開の例

	(採択前)	2013年度実績	2014年度実績	2015年度目標	2015年度実績※	2017年度目標
プロジェクト数	1	1	1	2	2	3

※成果報告書執筆時点は年度内であるため暫定値